

厚真町で伐採・造林一貫システムの 現地検討会と講演会を開催

日時：平成 27 年 11 月 17 日（火）13:00～16:30

会場：厚真町字豊沢町有林（現地検討会）、厚真町総合ケアセンター（講演会）

主催：森林総合研究所北海道支所、下川町、厚真町

内容：

北海道支所は、下川町および下川町ふるさと開発振興公社と共同で、農林水産省による農食研事業「先進機械を活用した伐採・造林一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発（H25～27）」を行っています。本事業は、トドマツ、カラマツ等の道産樹種の素材生産と、再造林とを一貫したシステムとして作り上げ、低コストで効率の良い北海道型林業を目指すものですが、おもに下川町の町有林をモデルとして試験を行ってきました。

本年度は本事業の最終年度に当たるため、研究成果を道内各地に普及することを目的として、このたび胆振総合振興局管内の厚真町で、現地検討会と講演会を行いました。道内の林業事業体や森林組合を始めとして、近隣の白老町、道有林、国有林関係者、研究機関など、約30名の参加がありました。

現地検討会では、本事業の成果の一つである、クラッシャーによる地拵のデモンストレーションを行いました。高速に回転する刃により、伐採後の枝条等を破碎して地拵することで、省力化および伐採に用いたベースマシンの有効利用になるばかりでなく、破碎されて地面に散乱したチップが下層植生の成長を抑える効果も期待されています。

講演会では、厚真町の近藤副町長による開催地挨拶に引き続き、本事業の概要、クラッシャーに関する詳しい説明、本事業の成果をもとにした低コスト林業の可能性に関して、研究担当者から発表され、最後に全体討論と質疑を行った後、閉幕しました。

